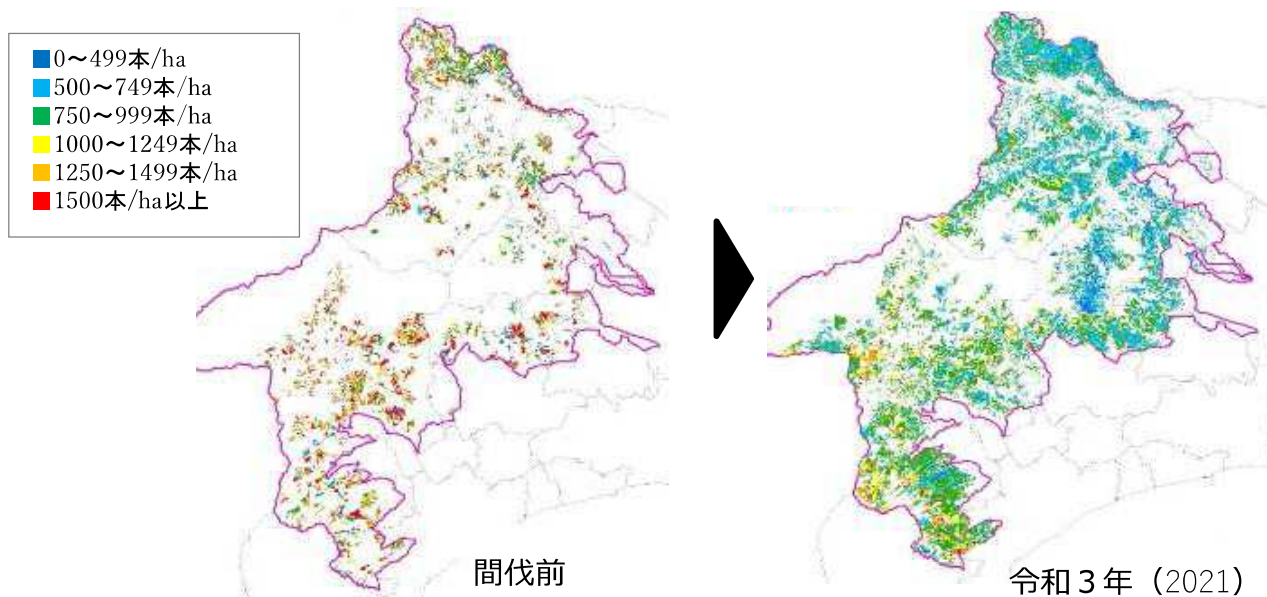


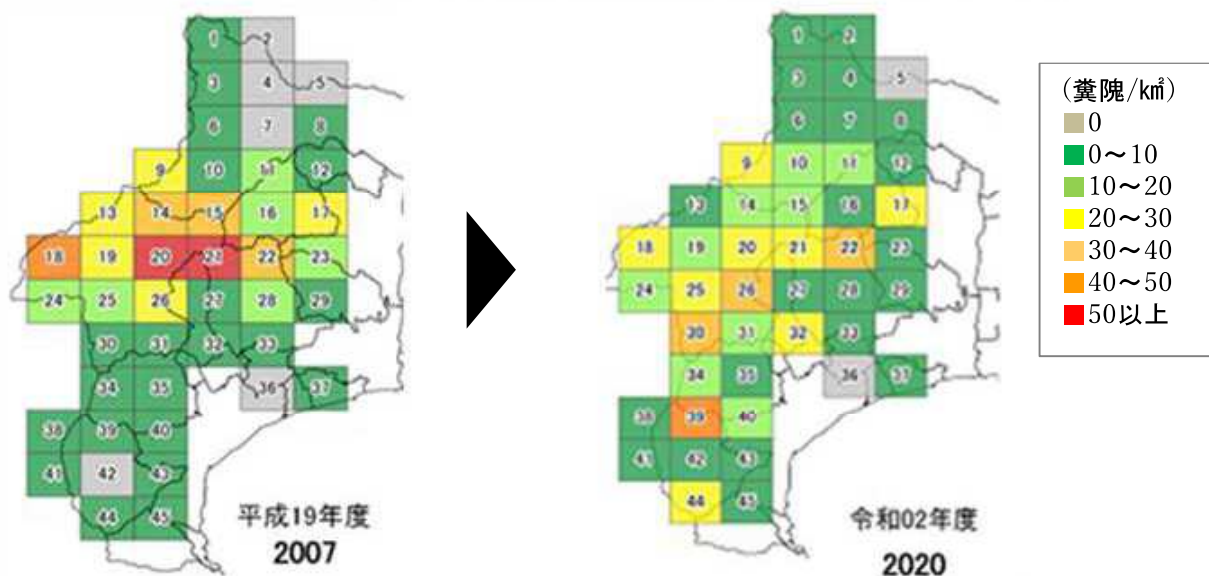
# 水源保全地域における立木密度の変化

水源保全地域の森林では、事業開始前は1,500本/ha程度あった立木密度が多くの箇所  
で1,000本/ha未満に減少し、間伐が進捗しています。



## 県内のシカ生息数の推移

施策前と比べて、第3期実行計画期間には年間の県管理捕獲頭数が大幅に増加し、その結果、丹沢でみられたシカの高密度地は、第3期実行計画期間の時点で大幅に減少しました。また、生息密度が上昇傾向にある箱根での捕獲も開始されました。



### まとめ

- ・事業実施箇所では、森林の下層植生が回復傾向を示している箇所も出てきています。

- ・下層植生の増加等が水源かん養機能の向上や生態系の健全化に繋がることを支持する検証結果が得られました。

- ・森林全体としては、施策開始前の危機的状況を脱しつつあり、水源かん養機能等の公益的機能が向上していると評価します。一方、依然としてシカの影響等もあり、水源環境を維持するためには継続的な取組が必要です。